



CHUBU UNIVERSITY

環境保全教育研究センター

2022年度活動報告



ユニット3 里山文化伝承

# 東濃地方の地芝居の調査

国際人間学研究所の「持続可能な観光」プロジェクトとして「東濃地方の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト」（嘉原優子教授・永田）を2019年度から開始し、2022年度で終了する。

東濃地方の地芝居は地域社会の文化資産であり、観光資源としての価値があるとともに、地域を活性化させ、地域住民の生活環境を守り育むものでもある。コロナ禍によりフィールド調査が十分にできなかつたため、このプロジェクトを2023年度より環境保全教育研究センターにおける里山文化伝承の調査として継続し、そのために柳谷啓子教授と嘉原優子教授を新たなメンバーとして迎えることになった。

中部大学国際人間学研究所シンポジウム「持続可能な観光2022」  
2023年2月10日に学生・コモンズにて開催



# 東濃地方の生活文化の調査

調査日：2022年7月3日（日）

場所：珈琲屋らんぷ恵那店

話者：恵那市在住（東濃出身）女性4名

A（大正15年生 95歳）・B（昭和6年生 91歳）

C（昭和7年生 90歳）・D（昭和11年生 85歳）

## 衣

- 養蚕が盛んだった。繭は引き伸ばして真綿にし，防寒着の「ねこ」の背中に入れた。
- 養蚕をしていない家は綿を栽培した。夏に綿を収穫して冬に紡ぎ，染めも機織りもした。木綿の着物は普段着とした。
- 子どもも自分で藁草履を作った。登校時，帰宅分をかばんにさげていった。雨降りの時は裸足だった。

## 食

- イナゴ3匹は鶏卵1個分の栄養があるといわれていた。
- 捕まえてきたイナゴは、袋の中に入れて糞を出させてから煮た。  
朴葉寿司のなかに入っていたことがあった。
- 正月のご馳走はツグミだった。嘴と足以外はすべて食べた。
- ツグミの内臓のうるかの瓶詰めが、わかまつ屋にあった。
- 霞網猟の時は、警察に捕まる順番を決めていた。
- 戦時中は、カイコのドチ（蛹）を煮て食べていた。

## 住

- 昭和40年頃にガソリンスタンドができたなら、井戸の水が出なくなった。
- 鍵で戸締まりをすることはなく、常に開けっぱなしだった。
- 蚊帳をつると、雷が落ちないといわれていた。



# 藍染め体験会

調査日：2022年11月2日（水）

場 所：学生ラウンジ（70号館1階） およびその周辺

講 師：矢野美代子氏（悠遊会代表）・悠遊会メンバー10名

参加者：人文学部日本語日本文化学科・現代教育学部の学生等

主 催：日本伝統文化推進プロジェクト





矢野美代子氏

春日井市在住。古布と草木染の愛好家。市民活動団体「悠遊会」主宰。主に春日井市内で「こんな時代があった」をテーマに、古布史料展、講演会、作品展示会などの活動を精力的に続けている。古布（外出着・普段着・仕事着・中着・家財衣・補助衣・諸布類）55点を中部大学に寄贈（2022年6月14日）。



## 2022年度グリーンピア春日井における活動

- \* 一般教室～桜の樹皮で染める～
- \* 草木染教室～Tシャツを藍で染める～
- \* 一般教室～コチニールでプチスカーフを染める～
- \* 一般教室～楊桃（やまもも）で染める～